

市民意識調査の結果について

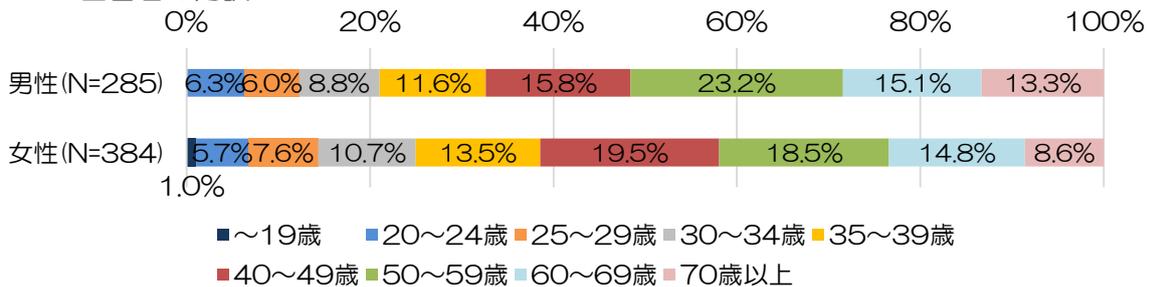
(1) 調査概要

「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略（矢板市総合戦略）」の策定にあたり、これまで市が行ってきた施策に対する満足度や住民のニーズ、高校生等の進路等に係る意向を把握するため、18歳以上の市民、及び市内の高校・専門学校に通う学生を対象に意識調査を行いました。

◆市民意識調査

調査対象	矢板市内の住民、約 34,400 人の中から満 18 歳以上の男女 (平成 27 年 6 月時点) ※結婚、出産、子育てに関する設問は、19～39 歳の男女
調査方法	郵送配布、郵送回収
対象者数	2,000 人
抽出方法	住民基本台帳に基づく無作為抽出
有効回収数	675 人
有効回収率	33.8%
実施期間	平成 27 年 6 月

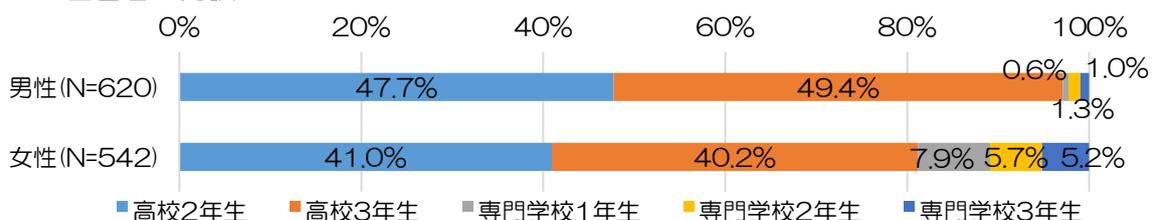
《回答者の内訳》



◆高校生・専門学校生に係る進路等の意識調査

調査対象	市内高校（矢板高校、矢板東高校、矢板中央高校）に通う 2～3 年生 専門学校（塩谷看護専門学校）に通う学生
調査方法	学校を通じた配布、回収
対象者数	1,200 人
有効回収数	1,171 人
有効回収率	97.6%
実施期間	平成 27 年 6 月

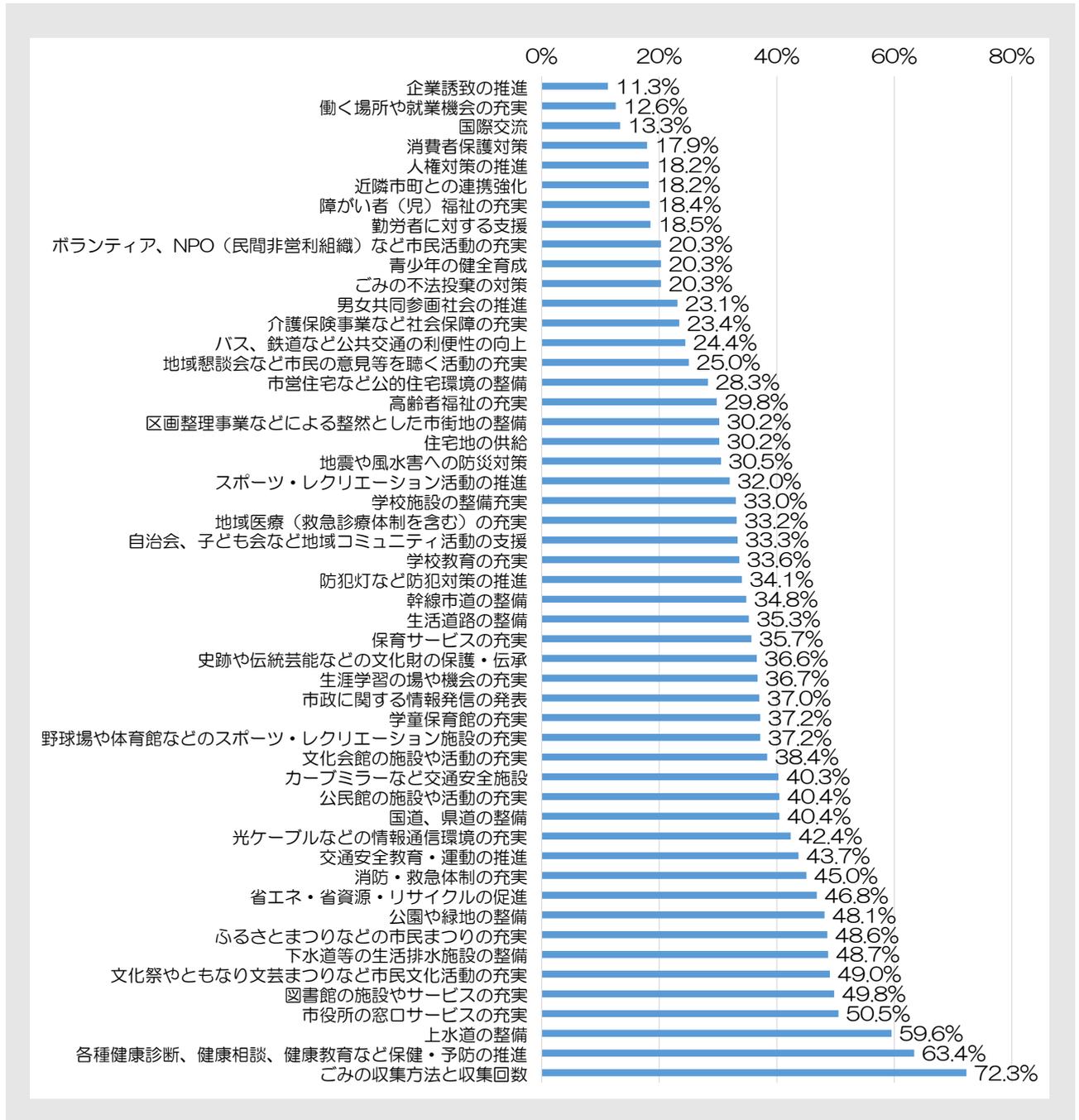
《回答者の内訳》



(2) 主な調査結果の概要

◆施策の満足度

- ・ 施策の満足度について、「企業誘致の推進」が11.3%で最も低く、次いで「働く場所や就業機会の充実」が低くなっています。



上記の満足度について、下記のように分類し、かつ全年代及び若い世代（18～39歳）別に整理したものを、次ページ以降に示します。

分類⇒ ①雇用創出 ②人の流れ ③結婚・出産・子育て ④まちづくり

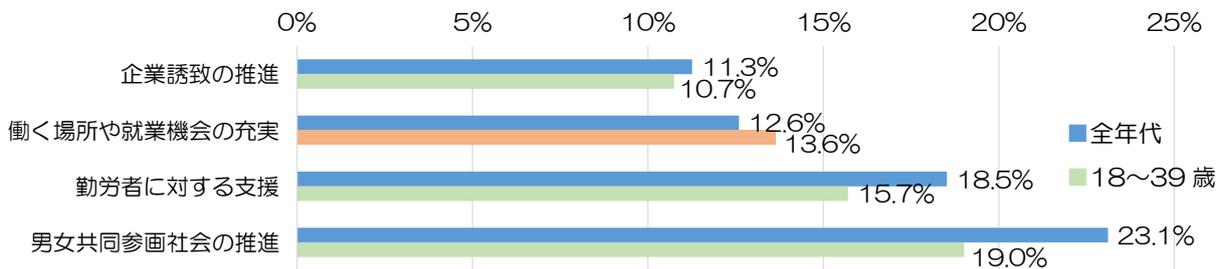
◆施策の満足度

- ①雇用創出～③結婚・出産・子育て等について、18～39歳は、全年代と比べて、就業機会や保育サービスでは比較的満足度が高いものの、全体的には満足度が低くなっています。
- ④まちづくりについては、18～39歳は、全年代と比べて、市街地整備や市道・生活道路の整備、住宅地の供給といったインフラ整備の満足度が高く、それ以外の項目では満足度が低くなっています。また、防犯対策や生涯学習、公民館の施設と活動、市民文化活動の満足度が全年代と比べて、特に低い傾向にあります。

全年代に比べ、18～39歳の満足度が高い項目：

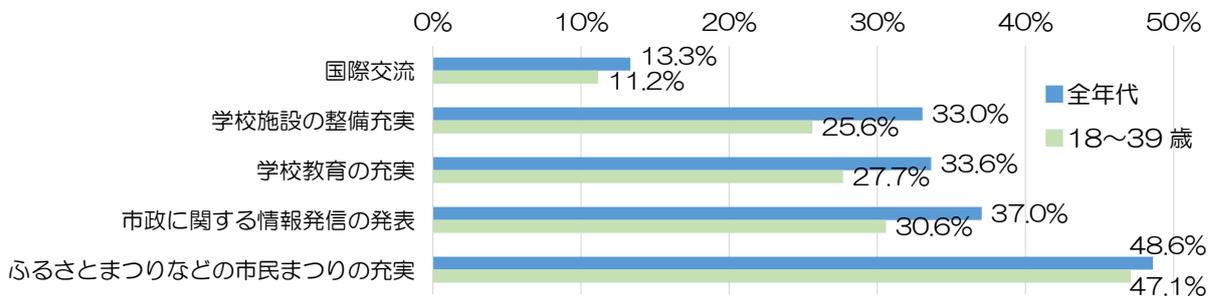
①雇用創出

【全年代】 + 【18～39歳】



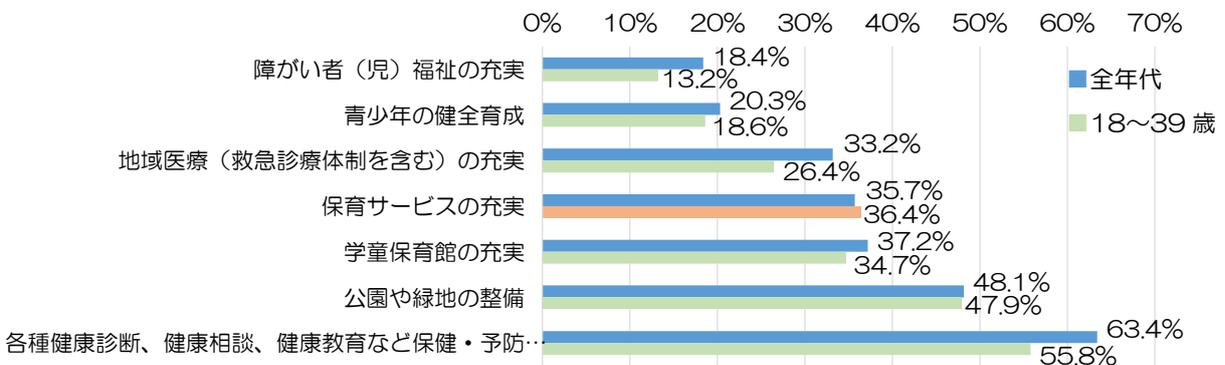
②人の流れ

【全年代】 + 【18～39歳】



③結婚・出産・子育て

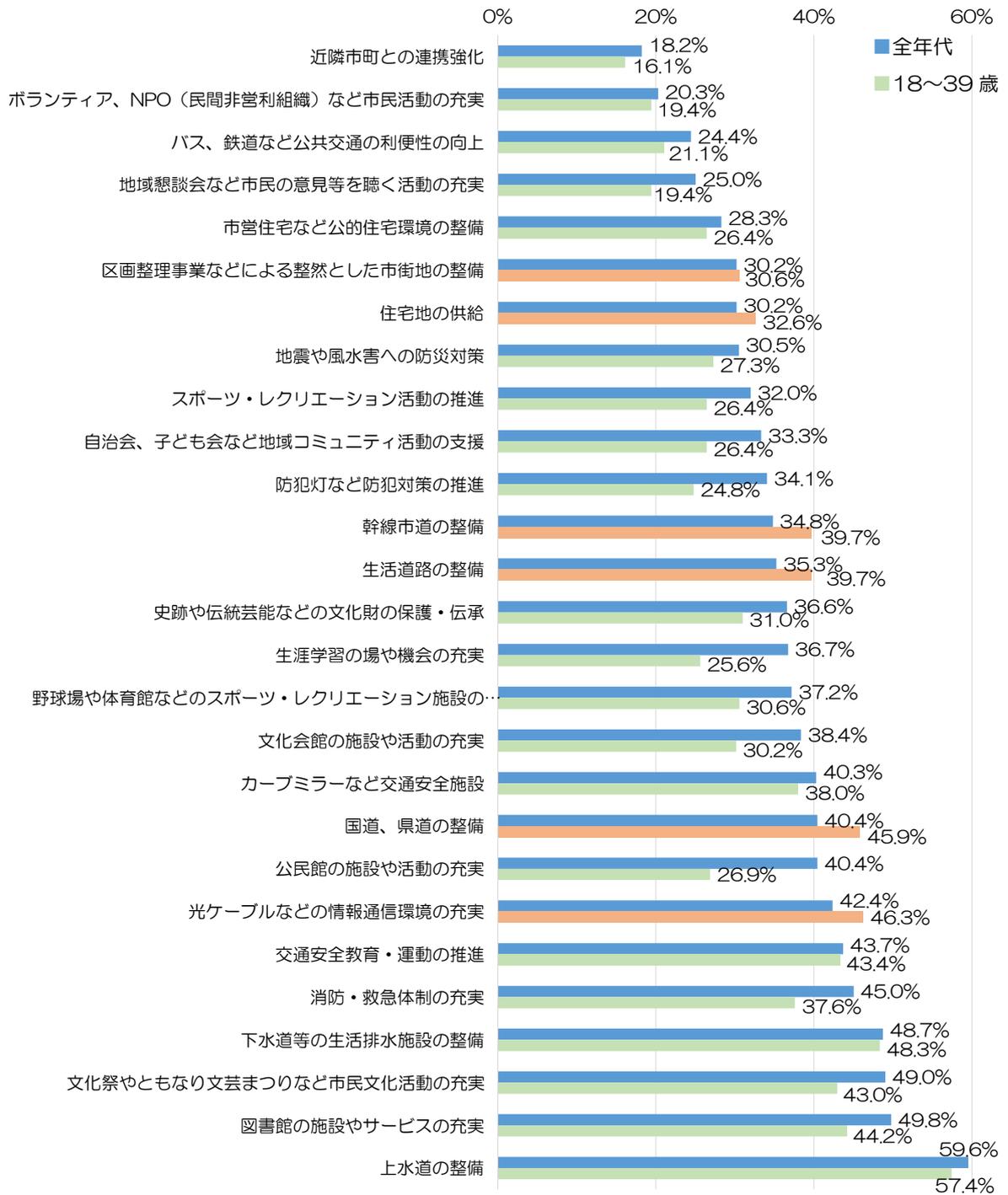
【全年代】 + 【18～39歳】



全年代に比べ、18～39歳の満足度が高い項目：

④まちづくり

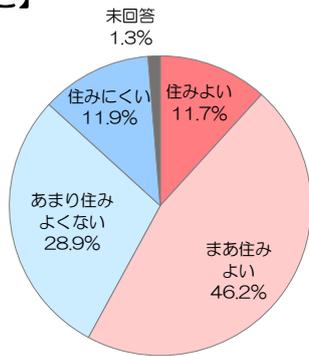
【全年代】+【18～39歳】



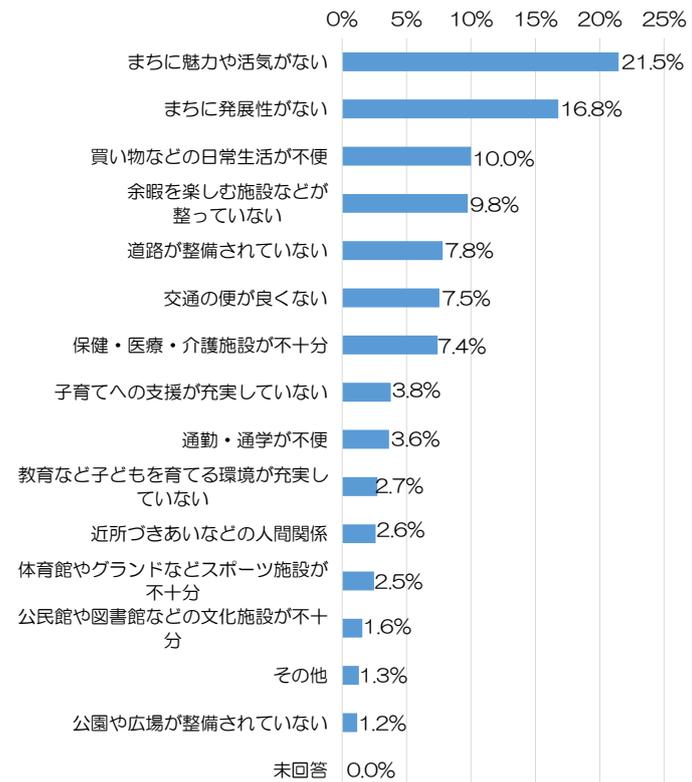
◆住み良さや定住意向

- ・矢板市の住み良さについて、「まあ住みよい」「住みよい」を合わせて、約 58.0%の方が住み良いと回答しています。
- ・「あまり住みよくない」「住みにくい」理由として、「まちに魅力や活気がない」が 21.5%で最も多く、続いて「まちに発展性がない」となっています。
- ・矢板市への定住意向について、「永住するつもり」が 58.8%と最も多くなっています。

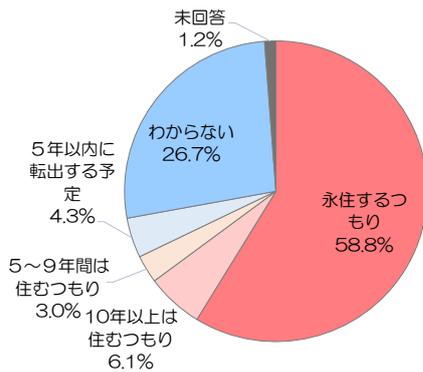
【住み良さ】



【住み良くない理由（複数回答）】



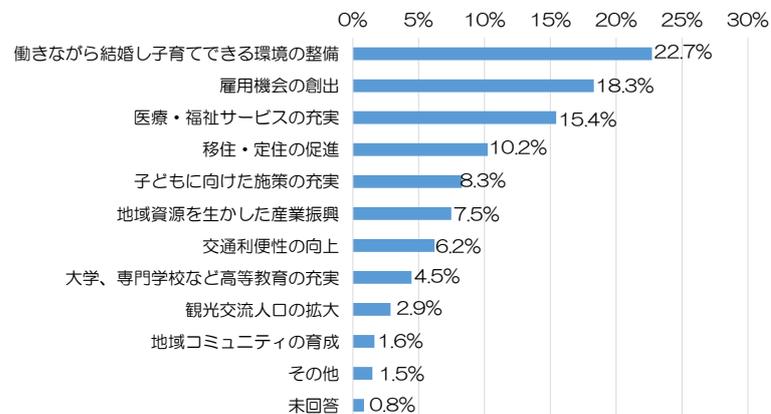
【定住意向】



◆人口減少対策について

- ・人口減少で講ずべき対策について、「働きながら結婚し子育てできる環境の整備」が 22.7%で最も多く、次いで「雇用機会の創出」「医療・福祉サービスの充実」となっています。

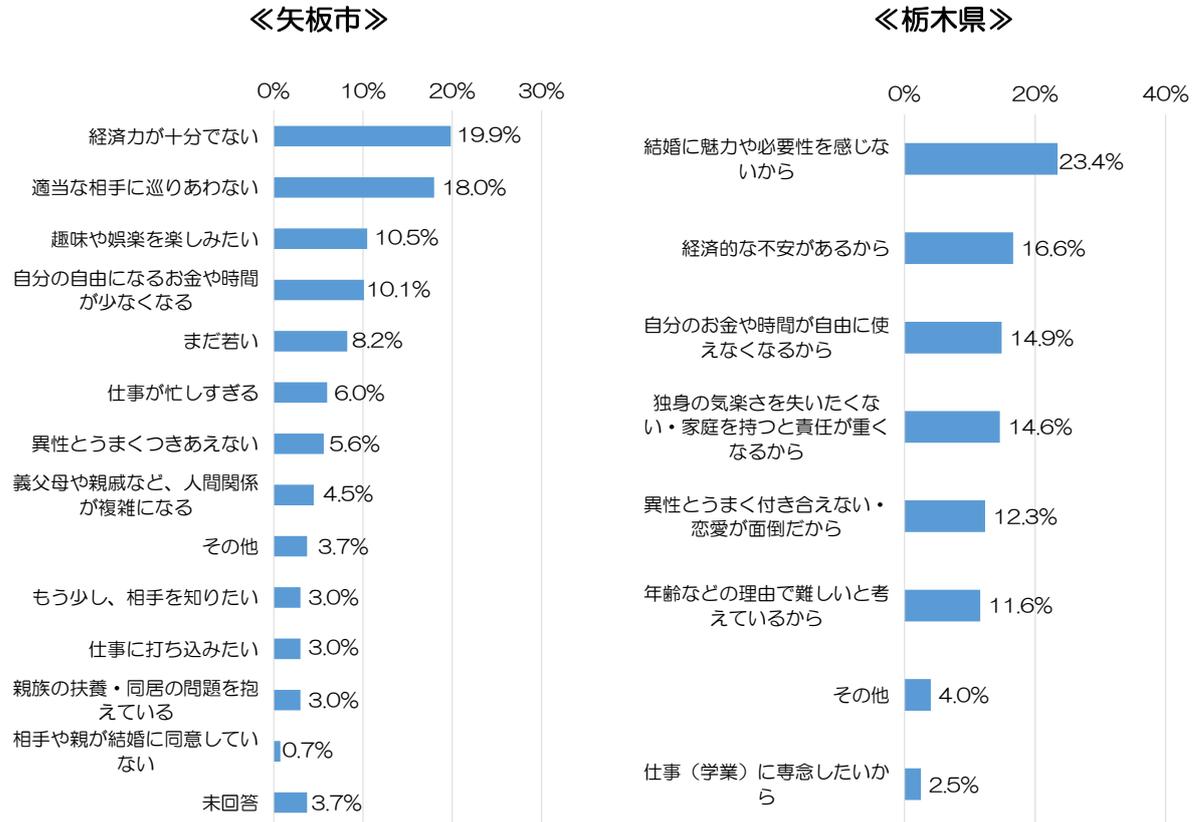
【人口減少で講ずべき対策（複数回答）】



◆結婚・出産・子育てについて

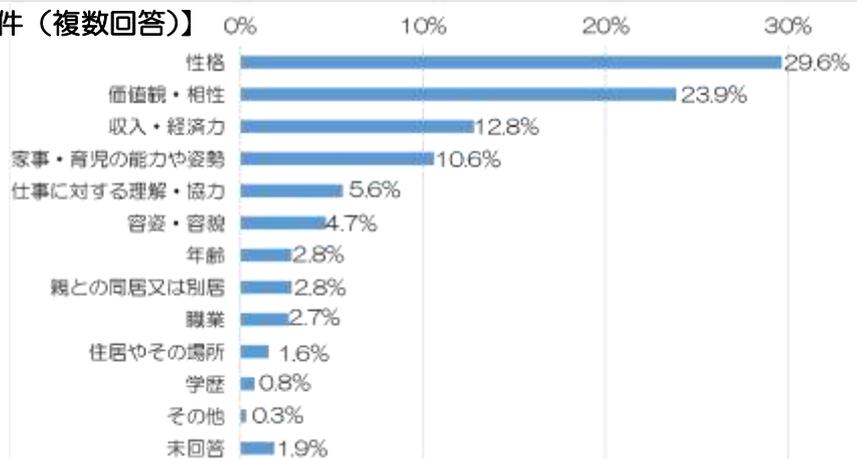
- 結婚していない理由として、「経済力が十分でない」が19.9%と最も多く、次いで「適当な相手に巡りあわない」となっています。栃木県で実施した同様の調査では「結婚に魅力や必要性を感じないから」が23.4%で最も多く、矢板市では栃木県に比べて、経済力が結婚の希望を叶える上での制約となっていることが伺えます。

【結婚していない理由（複数回答）】

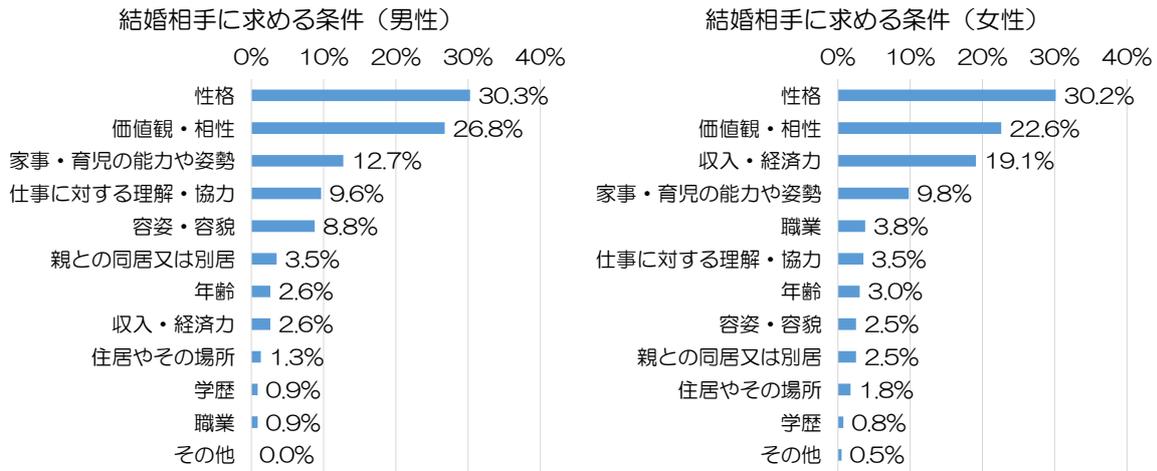


- 結婚相手に求める条件として、「性格」29.6%、「価値観・相性」23.9%に次いで、「収入・経済力」が12.8%となっています。男女別で見ると、性格、価値観に次いで、男性では「家事・育児の能力や姿勢」、女性では「収入・経済力」が多く挙がっています。

【結婚相手に求める条件（複数回答）】

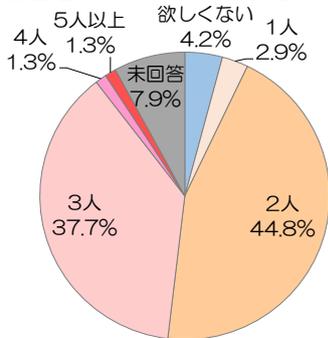


《男女別の内訳（複数回答）》

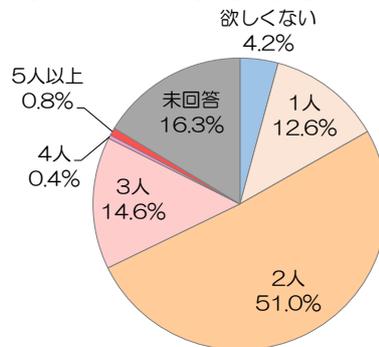


- 子どもが欲しくない人等を除き、理想の子どもの人数の平均値は 2.47 人、実際の子どもの予定人数の平均値は 2.07 人となっています。栃木県では、同条件での理想の子どもの人数は 2.49 人、実際の子どもの予定人数は 1.99 人であり、矢板市の実際の子どもの予定人数は栃木県よりも若干多くなっています。
- 理想の人数の子どもを持たない理由として、「子育てにかかる経済的負担が大きい」が 29.9% と最も多く、次いで「子育てによる心理的・肉体的な負担が大きい」「子育てしながら仕事をすることが難しそう」となっています。

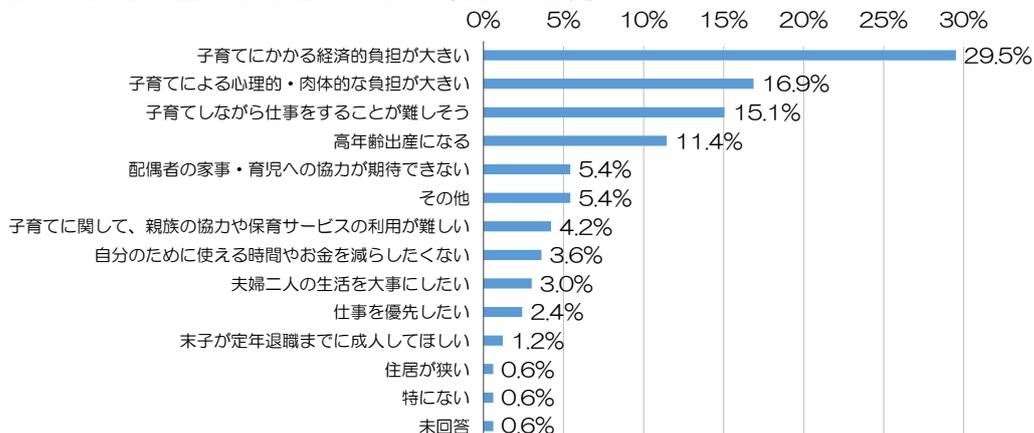
【理想の子どもの人数】



【実際の子どもの予定人数】



【理想の人数の子どもを持たない理由（複数回答）】



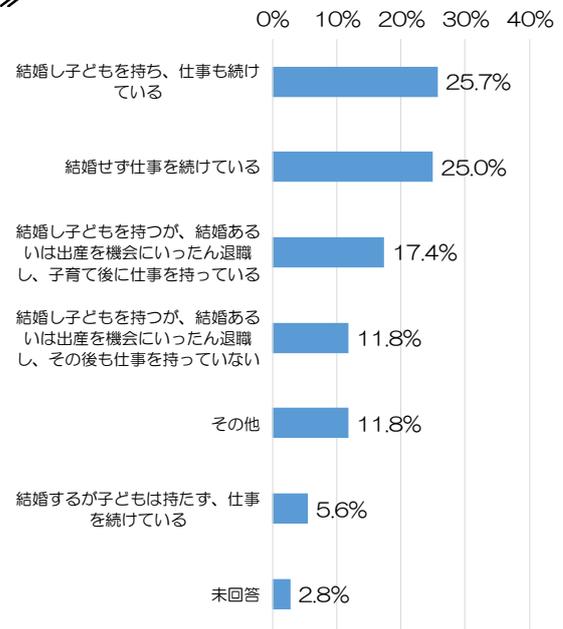
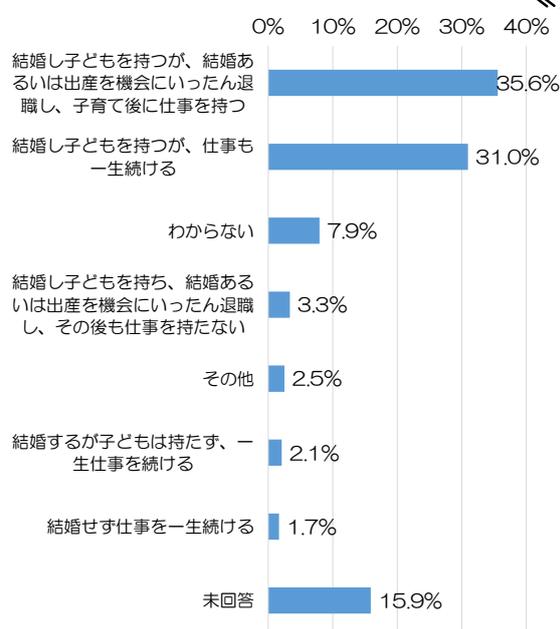
- 女性の希望するライフコースは、「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に仕事を持つ」が 35.6%で最も多く、次いで「結婚し子どもを持つが、仕事も一生続ける」となっているのに対し、現在のライフコースは「結婚し子どもを持ち、仕事も続けている」が 25.7%と最も多く、次いで「結婚せず仕事を続けている」となっています。
- 栃木県では、希望のライフコースは「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける」、現在のライフコースは「結婚し子どもを持つが、結婚又は妊娠・出産を機会にいったん退職し、子育てが一段落した後に、再び仕事を持つ」がそれぞれ最も多く、矢板市の方が子育てしながら仕事を続ける人が多いことが伺えます。

※ライフコースとは、結婚・出産・子育て・仕事等に係る将来の生き方を表します。

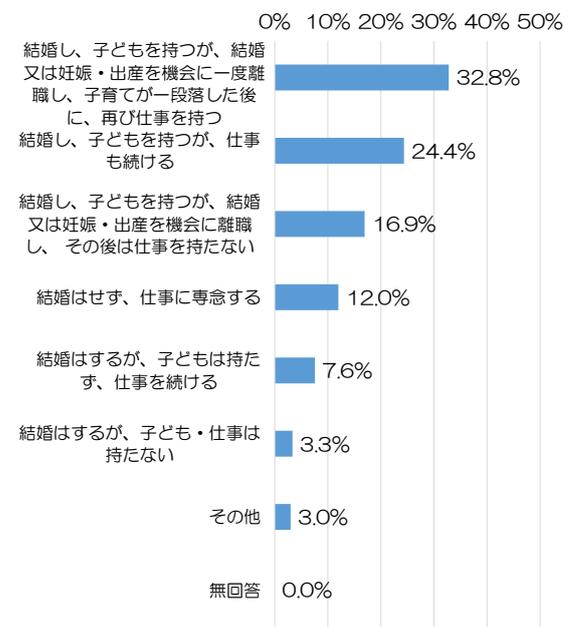
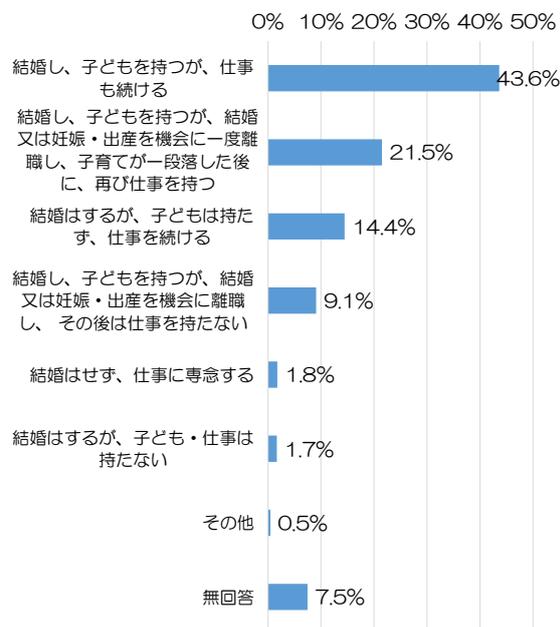
【希望のライフコース】

【現在のライフコース】

《矢板市》



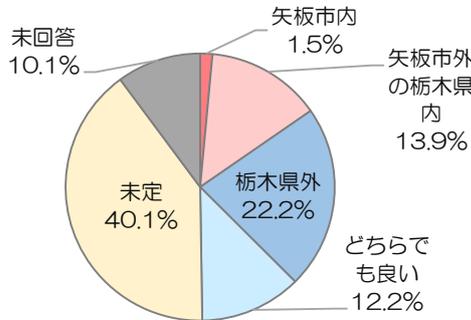
《栃木県》



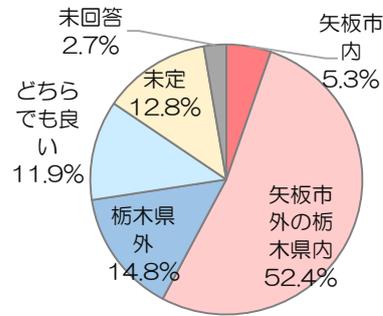
◆就職や定住について（高校生・専門学校生）

- ・高校生の大学等卒業後の希望就職先は、栃木県外が 22.2%で最も多く、次いで矢板市外の栃木県内となっています。専門学校生の希望就職先は、矢板市外の栃木県内が 52.4%で最も多く、次いで栃木県外となっています。

【大学等卒業後の希望就職先（高校生）】

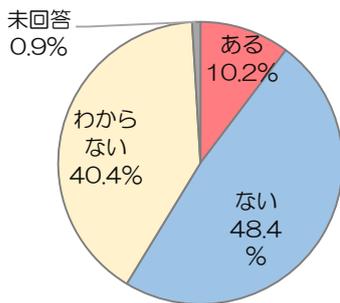


【希望就職先（専門学校生）】

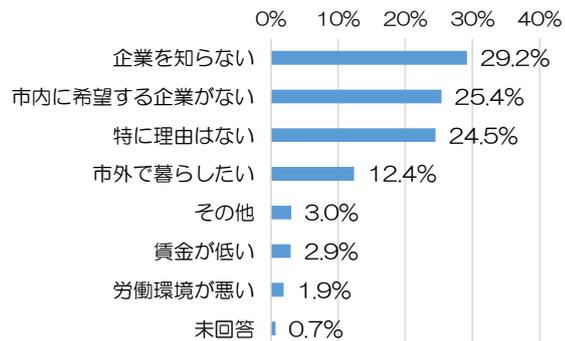


- ・働きたい企業が市内にあるかについて、「矢板市内にない」という結果が 48.4%で最も多く、次いで「わからない」となっています。働きたい企業が矢板市内にない理由として、「企業を知らない」が 29.2%で最も多くなっています。

【働きたい企業は矢板市内にあるか】

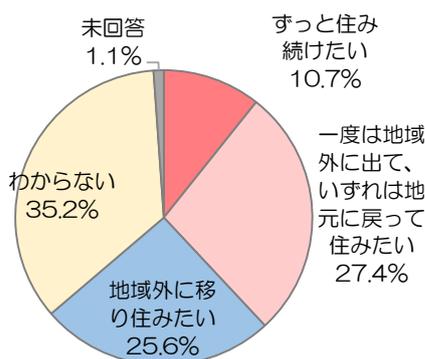


【働きたい企業が矢板市内にない理由（複数回答）】

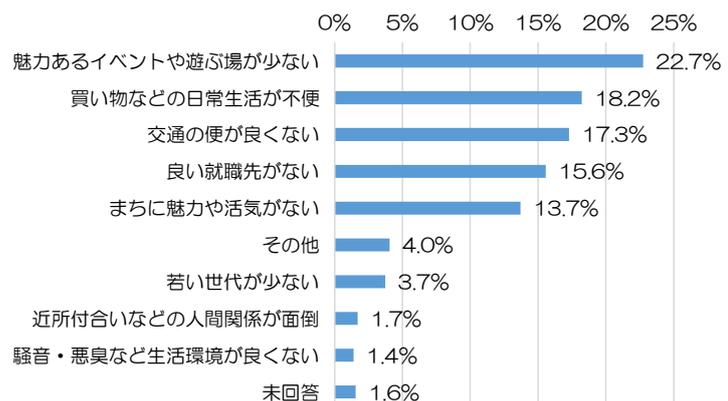


- ・将来にわたり今の地域に住みたいかについて、「一度は地域外に出て、いずれは地元に戻って住みたい」が 27.4%で最も多く、次いで「地域外に移り住みたい」となっている。一方で、「わからない」も 35.2%と多くなっています。
- ・地域外に移り住みたい理由として、「魅力あるイベントや遊ぶ場が少ない」が 22.7%で最も多く、次いで「買い物などの日常生活が不便」「交通の便が良くない」となっています。

【将来にわたり今の地域に住みたいか】



【地域外に移り住みたい理由（複数回答）】



(3) 調査結果から伺える課題

◆雇用機会の創出と産業の競争力強化

- 市内の施策について、「企業誘致の推進」「就業機会の充実」の満足度が低く、人口減少対策としても雇用対策が重要との意見が多く挙がっていることから、企業誘致や創業支援等、多様な雇用機会の創出に取り組む必要があると考えられます。
- 人口減少による地域活力の低下が懸念されており、地域内人口の減少に左右されない地域産業のあり方を検討する必要があると考えられます。

◆人材の還流に向けた雇用のマッチングやまちの魅力向上

- 市内の高校生・専門学校生の今後の定住・移住意向は、「いずれ地元に戻りたい」「わからない」で全体の約6割を占めており、こうした方々に、就職や結婚を機に矢板市に住んでもらう・戻ってきてもらう取り組みが必要と考えられます。
- 矢板市内に「働きたい企業がない」という意見が多いものの、その理由は「企業を知らない」が多く、希望する業種の企業が市内にあるものの、情報不足により矢板市内での就職が選択肢に挙がっていない可能性があります。そのため、市内の雇用機会の充実とともに、高校生等が市内企業の情報を知る機会を増やすことで、市内就職という選択肢を広げ、UJターン※につなげていくことが望まれます。
- 矢板市の魅力として最も多く挙がっている「自然環境の豊かさ」に加え、市外居住者から評価されている「人柄の良さ」や様々な「祭り・イベント」、数々の「特産物」を生かしつつ、来てみたい・住んでみたいと思える魅力を高めていくことが望まれます。

◆結婚・出産・子育ての希望実現に係る経済的安定やワークライフバランス※の推進

- 結婚相手に求める条件で「経済力」が上位に挙がっており、特に、女性の約5割が「収入・経済力」を求めています。「結婚していない理由」にも経済力を挙げる意見が多く、結婚の希望を叶えるには、結婚に必要な年収を得られるような若者の安定的な雇用の確保が必要と考えられます。
- 子どもが欲しくない人等を除いた理想の子ども人数2.47人に対して、実際の予定人数は2.07人であり、このギャップの理由として「子育てに係る経済的負担」「育児と仕事との両立」「心理的・肉体的負担」が挙がっています。これらを解消するため、医療費等の子育てに係る経済的支援から、地域社会や各種サービスで子育てをサポートする取り組み、保育・学童等の仕事の子どもの預け先確保、ワークライフバランスに係る取り組み等を総合的に進めていく必要があります。
- 女性の希望と実際のライフコースが異なる理由として、「希望する条件の仕事が見つからない」が最も多く、女性が働きやすい環境・条件を備えた雇用機会の充実が必要と考えられます。特に、希望ライフコースで最も多い「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産を機会にいったん退職し、子育て後に仕事を持つ」について、結婚等で一度退職した人の就業形態はパート・アルバイトが多いため、再就職後も正社員で就業できる雇用機会の創出が望まれます。

◆人口減少へ適応したまちづくりや、まちの魅力・活力の維持向上

- 人口減少による行政サービス低下や住民負担の増加が懸念されており、公共施設の計画的な維持・改修や必要に応じた配置適正化等により、人口減少に適応した持続可能な行政運営を目指しつつ、市民の生活の質の維持・向上に努める必要があると考えられます。
- まちに魅力や活気がない、発展性がないとの意見が多いことから、地域活力の維持・向上や商業活動等の活性化とともに、生活利便性の向上を図る必要があると考えられます。矢板地区では、市の中心部として賑わいや余暇を楽しむ機能創出や産業の振興、片岡地区と泉地区では生活利便性の向上が必要と考えられます。

※UJターンとは、大都市の居住者が地方に移住する動きのことで、Uターンは出身地に戻る移住、Jターンは出身地の近くの地方都市への移住、Iターンは出身地以外の地方への移住を言います。

※ワークライフバランスとは、仕事上の責任を果たす一方で、子育て・介護の時間や、家庭、地域、自己啓発等にかかる個人の時間を持てるような双方の調和を言います。